南半球便り（その 72）：近づく選挙

5 月 3 日

豪州では、来る 5 月 21 日に連邦議会の選挙が行われます。「一体、どうなっているの？」という質問を日本にいる方々から受けることが多くなっています。今日は、その選挙の話です。

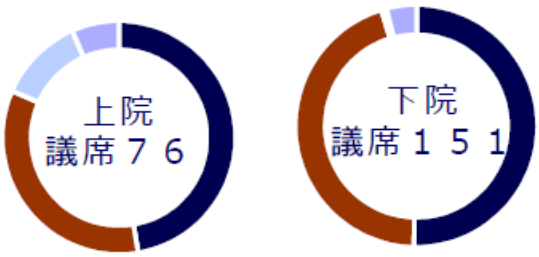
豪州連邦議会議事堂（出典：豪州連邦議会ＨＰ）

１．連邦議会

豪州は上院・下院の二院制度であり、上院は定員 76 名、任期 6 年、下院は定員 151 名、任期は 3 年です。今回の選挙では、上院議員の半数、下院議員全員が改選されます。

現在の勢力図は、次ページの図表のとおりであり、特に、法案の先議権等で優先的地位を有し焦点となっている下院では、与党の保守連合（自由党・国民党）が 75 議席、野党の労働党が 68 議席（ただし、本選挙の選挙区割変更により、労働党が強いビクトリア州の選挙区が増えたため、実質 69 議席を保有）、残りは少数政党と無所属の議員です。労働党が勝つためには、7 議席を上積みする必要があるのです。

【豪連邦議会の現在の勢力図】



上院		下院
３５	保守連合	７５
２６	労働党	６８
9	グリーンズ	1
6	その他	7

（連邦議会ＨＰを元に作成）

２．選挙の争点

与党保守連合は 2013 年から 9 年間にわたって政権（アボット、ターンブル、モリソン各首相）を維持し続けてきたので、当然のことながら、野党労働党としては「変化」を求める戦術になります。

野党側は、山火事、コロナ禍、洪水と相次いだ災害等とそれらへの対応、さらには生活費の高騰などによって蓄積してきた有権者の不満に訴えるとともに、モリソン首相への信任を問う立場です。

これに対して、与党側は、コロナ禍対応の実績をアピールし、特に、経済運営、中国への対応を始めとする国家安全保障問題への対応に当たって与党側に一日の長があることを強調する立場です。リーダーの信任問題については、内外で諸課題に直面する現下にあっては、「未知の者よりも既知の者が優る。」とのメッセージを出しています。

３．選挙戦の展開

世論調査（5 月 2 日時点）によれば、与野党の二党間の選好では、与党支持が 47%、野党支持が 53%と野党が有利に進めています。与党のモリソン首相と野党のアルバニージー党首

のどちらがリーダーとして適任かという問いかけに対しては、しばらくアルバニージー党首が優勢であったのに対し、最近の調査ではモリソン首相が盛り返し、モリソン首相を選好する割合は45%で、アルバニージー党首に6ポイント差をつけています。
要は、野党有利であったところを与党が追い上げている状況です。第一回のテレビ討論の結果では投票態度を決めていなかった人のうち、40%がアルバニージー党首に軍配を上げ、35%がモリソン首相に、残りは、態度未定となりました。第二回目の討論が5月8日夜に行われる予定です。

接戦が続いているのですが、難しいのは選挙予測です。日本と違ってすべての有権者に投票が義務づけられている（投票しないと、罰金を科されます。）ことから、浮動票の行方が益々重要になります。また、投票に当たっては、第一選好の候補だけでなく全候補者に優先順位をふる投票方式が採用されています。死票を少なくするための制度ですが、このように第一選好票だけで勝負が決せられるわけではないことも、行方を占うことを難しくしています。

また、そもそも世論調査の正確性にも疑問が投げかられています。３年前の選挙では、ほぼ全ての選挙プロが野党の勝利を予想していたにも拘わらず、蓋を開けてみるとモリソン首相が政権を維持し、大きな驚きを呼んだことは記憶に新しい話です。

モリソン首相（自由党）
（出典：首相府ＨＰ）

アルバニージー労働党党首
（出典：労働党ＨＰ）

４．行方

与党側・野党側の双方と話していると、三つの共通点に気づきます。
一つは、双方とも接戦を想定していること。20 前後の接戦区での勝敗が鍵を握ると見られています。
そして、どちらが勝つにしても、単独過半数に至らない、いわゆる「ハング・パーラメント」になる可能性が高いとの見方が双方にあります。

最後に、政権の安定性、政策の一貫性の観点からは、ハング・パーラメントが豪州にとって望ましくないとの認識です。

既に選挙戦の火蓋は、切って落とされました。６週間に及ぶ長丁場。選挙戦初日に野党党首が失業率や政策金利を記者から問われた際に答えられなかったことが大きな注目を集めました。さらには、同党首が先週、コロナ陽性と診断され、選挙戦の最中に自宅隔離を強いられたことも、話題を呼びました。

一方、野党側は、豪州にとって太平洋の近隣島嶼国であるソロモンが中国との間で安全保障面での協力強化の協定に急遽署名したこと、インフレ傾向が顕著となり豪中銀による利上げが迫り、生活コスト増の懸念が増していることを問題視し、与党政権側のハンドリングを追及する姿勢です。

そうした中で、残りほぼ３週間になった選挙戦での双方の発言、対応の優劣が雌雄を決すると目されています。まさに、最後まで目が離せない状況なのです。

緑を基調とする下院

赤を基調とする上院

（出典：豪州議会ＨＰ）

５．<u>議員生活素描</u>

それにつけても、豪州の連邦議員は激職です。豪州の政治家と接するたび、その感を強くします。下院議員の任期は三年と短いため、しばしば選挙に直面します。また、下記の事情もあります。すると、50 代半ばで、家庭生活への負担を訴えて政界を去る光景がしばしば見られるのです。

深化し続ける日豪関係を反映し、この一年半弱の間、日本大使公邸には、アボット元首相、

スミス、ウォレス前・現下院議長、ペイン外相、ダットン国防相を始めとする９人の現職閣僚、フォーセット外交委員会委員長、パターソン・インテリジェンス委員会委員長など、与野党を問わず多くの政治家にお越しいただき、じっくりと意見交換を重ねてきました。

基本的に、議員は議会閉会中には地元に戻ってしまうので、議員との公邸での会食は、彼らがキャンベラにいる議会会期中に行わざるを得ません。ところが、会期中は議会審議で夜８時までは拘束されることが多いので、夕食会は８時 15 分スタートがパターン化。そうなると、終了時刻は 11 時近くになってしまうことも珍しくありません。
その上、キャンベラには、議員用宿舎はありません。多くの議員は、家賃が高騰を続けている当地で、他の議員をルームメートとしてアパートでの共同生活。ベッドメークや洗濯の負担を考えてホテル暮らしをしている人もいます。

そう言えば、テレビ映画の名作「シークレット・シティ」に、こんな場面がありました。国防大臣の任にある政治家が、通学先でのトラブルを抱えて地元パースから訪ねてきた多感な高校生の息子に対し、「キャンベラでの生活は、仕事優先。『ピザとワインの生活』。」と説き、キャンベラへの転校・父親との同居をあきらめさせるのです。消沈した息子は、パースに住む母親の元にとぼとぼと帰っていきました。何ともリアルで、胸が締め付けられました。

加えて、議員にとって大変であろうと察せられるのは、キャンベラと地元との頻繁な往復です。広大な豪州にあっては、膨大な距離を飛行機か自動車で移動する他はありません。かつ、小都市キャンベラからでは、直行便の行き先と本数は限られています。だからこそ、「新幹線を導入してキャンベラをシドニーやメルボルンとつなげれば、議員の地元との移動も楽になりますよ。」と私は囁いているのです（笑）。

６．日豪議員交流

いずれにせよ、日豪が共有する価値の一つとして大きいものが民主主義。豪州国民が民主的手続きに従って国民の代表を選出する選挙を経て構成されることとなる新政府、さらには立法府と、かつてなく良好で緊密な日豪関係を維持し、さらには強化するために協働していくことが楽しみです。

早速、24 日には日本政府主催により、クアッド（日米豪印）の首脳会合が東京で開催予定です。

今年３月に開催された日米豪印首脳テレビ会議
（出典：内閣広報室）

また、日豪間の議員交流を進めていくことも大きな課題です。日本側では逢沢一郎衆議院議員を会長とする日豪議連（昨年、顧問として麻生元総理、安倍元総理、甘利元経産相が参加。）、豪州側にはギレスピー地方保健大臣を会長とする豪日議員グループがあります。

コロナによる旅行制限が緩和され、豪州で新しい議会が選出された後には、議員間の交流がいっそう活発に再開されることを祈念しております。

山上信吾